THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S

The Y's Men's Club of Kanazawa

CHARTERED JULY 9, 1947
c/o KANAZAWA YMCA 44-1-202 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998

国際会長主題	「世を照らす光となろう」	"Be the Light of World"
アジア地域会長主題	「歳月はY's をワイズ(賢者)にする」	"Years Bring Wisdom"
西日本区理事主題	「先頭にたってワイズの光を輝かそう　クラブで、地域で、国際社会で」	
	"Let's Y'smen Light Shine before Others, in the Club, in the Community, in the World"	
中部部長主題	「前へ！声を掛け合い１」	"Go forwarld! Call Together
金沢クラブ会長主題	「より楽しく・より豊かに　伝えようワイズワールド」	

2013　２月間強調　TOF・CS・FF

今月の聖句

ところが、他の種は、よい地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。

マタイによる福音書13章8節

２月強調月間

できることから始めましょう。TOF・FF あなたの献金が命を助けます。

笠井　俊明地域奉仕・環境事業主任
（京都トップスクラブ）

２月例会 プログラム

と　き　2013年2月21日（Thu.）18:30～20:30
ところ　金沢ﾆｭｰｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ
会　費　¥3,000（会員不要）　¥2,000（ﾒﾈｯﾄ）

	司会　高口　昇君
開会・点鐘	幸正一誠会長
主題	司会者
ワイズ・ソング	一同
今月の聖句	司会者
ﾊｯﾋﾟｰﾊﾞｰｽﾃﾞｲ	幸正一誠会長
ゲスト紹介	伊藤仁信君
食前の感謝	山本達也君
～～～～～～ 会　食 ～～～～～～	
スピーチ	「観光金沢と物産品に携わって」
	松浦　勉氏
委員会報告	各委員
ニコニコタイム	澁谷洋太郎君
ＹＭＣＡの歌	一同
閉会・点鐘	幸正一誠会長

１月 クラブ活動状況

第１例会（1月17日 Thu.）
メ　ン：伊藤、数澤、高口、幸正、澁谷、西尾、山本　（7名）
出席率　：88 %
メネット：伊藤、数澤、高口、澁谷、山本（5名）
ゲスト：長谷川夫妻、影山、清水、西　（5名）

第２例会（1月8日 Tue.）
メ　ン：伊藤、数澤、幸正、澁谷　（4名）
メネット：数澤、山内　（2名）

ニコニコタイム

１３，０００円
クラブファンド　累計　７９，１００円

ＢＦポイント

切手	0 kg	累計	0 kg
現金	12,000円	累計	12,000円

会長	幸正一誠	書記	山内健司
副会長	澁谷洋太郎	会計	高口　昇
前会長	数澤輝夫	ﾒﾈｯﾄ会長	数澤淑子

第一例会：毎月第三木曜日　18:30～20:30
金沢ﾆｭｰｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ　Tel (076)233-1311
第二例会：毎月１日　18:30～20:00
金沢ﾆｭｰｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ　2F　（トレド）

2013年1月14日東京大雪

山本　達也

１月の第２週の連休に東京に出かけた。

１月 12 日仕事を終えてから、午後に小松空港から東京に向かった。東京は晴れていました。家内と２人、表参道で息子と待ち合わせし、夜の８時半から澁谷のイタリアンで食事を摂りました。店から出た時間は10時半近くになっていましたが、澁谷は人であふれていて、久しぶりに生き生きした雰囲気を味わいました。金沢から来ると車とか電車の乗り換えが面倒に感じ、タクシーを拾い家内の両親の家に向かいました。夜遅くなりましたが、待っていてくださり、家族とはいいものであると心に染みました。

翌日 13 日は、東京は快晴です。両親が朝食を準備してくれていました。日ごろ、私たちが摂っている朝食よりかなり多めの食事をいただき、もう１人の息子との待ち合わせの新宿に出かけました。山手線は、私が東京で生活していたころより乗車している人が少ないような印象を受けました。新しく地下鉄ができたためか、混み具合が緩和されたのかなと思いました。知り合いに会うため中央線に乗って国分寺近辺にも出かけました。晴れていて日差しで建物、木々がまぶしく感じられ大変気持ちが良かったです。

夜は新宿の伊勢丹で息子とショッピング、食事を楽しみ、大変満足して両親の家に戻りましたが、ワインが待っておりました。翌日は金沢に帰るだけで、用事はすべて順調に終わり、気持ちよく、軽食をつまみ、ワインが滑らかに口から喉に流れました。

１月 14 日早朝は曇り、朝９時半に両親の家を出てタクシーで恵比寿に向かいました。まだこの時点では、雨も、雪も降っていませんでしたが、恵比寿に着くころは雪がちらつき、羽田空港に着いた時には、雪は本降りになりました。13時の出発予定なので、雪を気にすることもなく従業員のお土産を買っていました。買い物を終えて、昼食をとりましたが、席から雪の降っている空港の滑走路が見え、「東京でこれほど雪が降ると大変だね」と笑いながら、家内と話をしておりましたが、まったく雪がやむ形跡がありません。少し心配になってきましたが、何とかなるだろうと話しながら改札を入り、ゲートに向かいました。

ゲート前に座って待っていると、天候待ちの便が出始めました。

そうこうしているうちに、私たちの小松行きの搭乗時間になりましたが、「まだ少し準備に時間がかかります」とアナウンスが流れてしまいました。でも、目の前に私たちが搭乗する予定の飛行機が止まっており、搭乗口には職員の人がゲートを開ける準備をしているので飛ぶだろうと期待していました。私たちの出発時間を 30 分過ぎて、羽田空港全館に、アナウンスが流れました。「本日の出発予定の PM13:00~16:30 までの全便は悪天候のため欠航といたします。解約手続きをなさってください。」

なんという失望感、私たちの便は PM13:00 発でした。一瞬、呆然です。解約場所は人だかりで大変混雑していて大行列になっていました。家内と解約を待っていては、本日中に金沢に帰れないかもしれないと即断し、そのまま、東京モノレールに乗って浜松町へ向かいました。モノレールから高速道路を見ると、一部で渋滞していたり、横転している車があったり、スリップで動けない状態でした。まだ午後の２時前後の話ですから雪が降り始めて４時間で、この状態です、驚きです。モノレールも浜松近くでスリップし、ガツンガツンと止まるかと心配いたしましたが、なんとか無事浜松町に着きました。東京駅に向かいましたが、山手線は遅れながらも動いていましたが、京浜東北線は運転中止していました。東京駅で上越新幹線の切符を買うために並びました、並ぶ人波の中に羽田空港で見かけた人が大勢います。皆さん、考えることは同じだと感心していました。上越新幹線は 10 分後に出発する「あさま」をゲットできホームに走りました。新幹線と接続する北陸線は、「はくたか」ですが指定券はほとんど満席であせりました。

数分遅れで東京駅を出発することができました。新幹線から見える光景は、これが東京かと思う風景でした。真っ白な雪に覆われ、道路には車も人もなく、たまに見える車は乗り捨てられたのか、動けずぽつんと止まっている状態で、動いている車も人も皆無に近いものでした。東京を抜けるとたまに道路を走っている車が散見され、駐車場とか、道路の路肩で車を動かすため人が集まっているのが見受けられました。

越後湯沢で「はくたか」に乗り換えましたが、指定席は満席で売り切れであったのに、車内の乗車率 20～30%で、あまりの少なさのギャップに驚かされました。車掌さんの話では新幹線のトキが運休になったためで、もしかすれば私たちの乗った「あさま」もと・・・神様に感謝をしておりました。

北陸地区に入りましたが全く雪が降った形跡はありません。新潟も富山も石川も雪は降っていませんでした。金沢に着きましたが、これから飛行場に駐車している車をとりに行かないといけません。列車を乗り

継ぎ小松へ向かいました。車で自宅に着いたのは夜の９時過ぎでした。
朝の９時から夜の９時半まで 12 時間越えの帰宅旅行になりました。

松浦 勉 氏プロフィール
昭和 30 年 4 月生まれ　57 歳
昭和 53 年 3 月　金沢星稜大学卒業
同年 3 月 1 日　（協）石川県観光物産館　入社
平成 12 年 5 月　専務理事に就任　現在に至る

【1 月例会報告】

１月のスピーチは陶芸作家の長谷川塑人先生をゲストにお迎えして、工芸界での長年の素晴らしいご活躍を通して、「焼き物の歴史的考察」と題してのお話しをお聴きしました。先生はロータリクラブに所属しておられたが、ワイズメンズクラブの精神的な面、当日の聖句などは非常によいと話されました。ご自身のお母様がクリスチャンであった関係で子供のころ教会へも行っておられたので、キリスト教には非常に親しみを感じておられ、その他宗教的なことにも興味を持ち勉強もされ、一つの物に拘らず柔軟な心で楽しむのが一番ではないかと思うと話を進められた。

九谷焼などは白磁ものに色合いを付ける仕事がメインだが、中国の明の時代（十二世紀頃）、その頃中国の景徳鎮では色絵が発達した。鉄釉と言う黒い土があり多くの黒い窯があった。其処には天目山という山に仏寺があり仏教を学ぶお坊さんが遊学してお土産として日本に黒い焼き物を持ち帰った。それが天目釉という焼き物である。約二千年の歴史を経て白地に色を付ける手法が朝鮮を経て日本に渡って来た。それを真似て伊万里でも作っているし九谷でも作ったという説と、また京都から来たという説もある。いまも古九谷論争をやっている。あれは伊万里で作ったという説、有田で作ったという説もあるが、古九谷の山の中に立派な窯があるので、その窯で焼いたのだという説もある。中国の焼き物は明の時代の前、モンゴルの原人が中国全土を支配した元の時代に、その染付にコバルトを用いている。立派な素晴らしい絵を描いた大きな鉢とか花瓶などが土出している。そのコバルトという酸化物で絵を顔に描くことか多くあり、染付に愛用されていたと言われている。そこで皇帝が使う物と一般人が使う物と焼く窯が違うので窯が一杯あった。例えば、竜は想像上の動物ですが、その絵では皇帝は五つの爪があり、貴族は四つの爪がある。普通は三つの爪しか描けなかった。中国の韓の時代に堅い焼き物でなく少し柔らかい薬として鉛を主体としたもので八百度から九百度で溶ける様な薬を用いた。それはみどりを発色するもので酸化銅である。焼き物の場合はすべて酸化銅を使用している。韓の時代にみどりの焼き物が造られた。これが色絵の源流だと言われている。それでは韓の時代にいきなり低温で焼くことが出来たかというとそれはシルクロードを経てペルシャ、もっと遡ってメソポタニヤ文化それ以前の古代エジプト紀元前八千年にガラスが出来ている。古代ガラスの組成を分析した表が出ている。ガラスの研究を見た瞬間現代のものと殆ど変りがない。如何に古代エジプトの現住民は凄い

か。古代ガラスが中国に紀元前三千年頃に流れてきているという説がある。さまざまの歴史的変遷を経て、古代エジプトからガラスの文化が中国の漢を経て入ってきたことが分かる。漢の緑絵は日本にどのように入ってきたか、それは遣唐使が貢物、お土産として貰ったものを真似して奈良三彩で同じものを造ったのである。奈良三彩の薬を分析すると鉛が入っている事で非常に流れ易く全体を奇麗に流れる。鉛の入った薬は非常に溶けやすいが鉛と珪石を混ぜて、安定剤とてシラタマを用いた。それが九谷焼きで応用されてシラタマと珪石と鉛とを混ぜて、例えばみどりだとコバルトを入れた。これまでにどれだけの人が関わりを持ってきたか分かりません。　　（文責　数澤　輝夫）

12 月で退会の影山メンに花束贈呈

～～～～～～～～～ お知らせ ～～～～～～～～～

☆西日本区に下記の金額を送りました。
CS　12,000 円（1 人　1,500 円）
BF　12,000 円（1 人　1,500 円）

☆2 月例会にお持ちください。

Y’サ 1,500 円

TOF　1,500 円　　合計　3,000 円

☆京都ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗﾌﾞ 20 周年記念例会

日　時：3 月 3 日（日）14：00～

場　所：リーガロイヤルホテル京都

登録費：10,000 円

☆東日本区大会

日　時：6 月 8 日（土）～9 日（日）

場　所：花巻温泉　ホテル千秋閣

☆西日本区大会

日　時：6 月 22 日（土）～23 日（日）

場　所：名古屋能楽堂

登録費：20,000 円

☆滋賀蒲生野・金沢合同例会

日　時：4 月 6 日（土）～7 日（日）

場　所：能登

～～～～～～～～～ YMCA のお知らせ ～～～～～～～～～

☆早天祈祷会

日　時　2013 年 3 月 1 日（金）6：00～

場　所　金沢ＹＭＣＡ集会室

☆スキー教室

日　時　2 月 16 日（土）　8:00～

場　所　一里野温泉スキー場

Happy 與帋晩帷帑眇畯輪

メ　　ン　山内　健司君　　2 月 17 日

3 月の担当

ブリテン執筆：　澁谷　洋太郎君

数澤　淑子さん

卓 話 担 当：　澁谷　洋太郎君

原稿は 2 月 22 日までに山内までお願いします。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～ メ ネ ッ ト 報 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

母や叔母の分も・・・

私の亡き母は三姉妹の真ん中でそれぞれ三歳違いの姉と妹がいました。

母が一番先にこの世を去り、次に三歳下の叔母が亡くなり現在今年 3 月に 92 歳になる伯母がいます。名古屋で一人暮しの寂しさはありますが自由を選ぶそうで広過ぎる家に一人で暮らしています。

この伯母は海外旅行が大好きでいくつかの武勇伝があります。なかでもクィーンエリザベス号でのクルーズでフランスに寄航した時の事、下船しショッピングに夢中となり出航時間に間に合わなくなってしまったそうです。お店の人にクィーンエリザベス号の乗客だと告げるとお店の前からパトカーが先導してフルスピードで港まで送ってもらったそうです。とってもスリル満点だったと今でもその時の事を楽しそうに話しています。

伯母のたった一人の孫娘が昨年 11 月に横浜で結婚式を挙げました。伯母は外に出る時は車椅子にしているので、当日は伯母の事はすべてお任せと託されていました。前日から花嫁よりも興奮気味、自分の着る洋服、靴、アクセサリー等をチェック、一人息子の奥さんに後からマニキュアをしてあげると言われ満足げでした。

結婚式の当日教会での式も無事終わり、披露宴が始まり新婦の母方の従姉妹二人がお祝いの曲を連弾で聴かせてくれました。司会者の方が伯母がリュウマチのリハビリの為、毎朝讃美歌を弾き歌っている事を紹

介したところ、まわりから歓声があがりぜひこの席で・・・と拍手が湧き起こりました。少し躊躇していましたが、私にピアノの前まで車椅子を進めるように言い、では皆さんがご存知の讃美歌 312 番をと慣れた手つきで弾き始めました。そのピアノに向かう姿勢や、両手で弾きながら大きな声で歌う姿に出席者もなじみの曲だった事もあり声を合わせる事ができ、胸がいっぱいになった瞬間でした。

伯母はクリスチャンではありませんが、祖父が北海道勤務だった時は北星学院で学び、金沢に転勤してからは北陸学院で学んだ事もあり、指のリハビリに選んだのは讃美歌を弾く事だつたようです。

この結婚式が決まった昨年 5 月には 11 月の式までは生きていないかもと気弱な電話を掛けてきていましたが、そのような事を言っていたのを忘れてしまったような顔艶、言葉のすべり具合、食欲、すべてパーフェクト状態で久々に会った私を驚かせ喜ばせてくれました。しかし帰宅する私にもう会えないかもしれないと泣き出しました。大丈夫又会えるから・・母や叔母の分ももっともっと長生きして欲しいと心から願って帰宅しました。

（高口　紀子　記）